



中高生フォトグラファー応援マガジン

boys & girls photo magazine

No.326

TopEye

2025年度第3回
TopEyeフォトコンテスト結果発表！

2025年度第4回TopEyeフォトコンテスト

詳細はコチラ



募集締切

2026.1/9^金

当日必着有効



「飛んできた！」谷坂 陽菜

八代白百合学園高等学校3年(熊本県)



「ミルモノ」梅田 泰輔
神奈川県立横浜瀬谷高等学校3年

TopEye フォトコンテスト

オリジナリティの高い作品が集まった今回のコンテスト。難しいテーマにも果敢に取り組み、試行錯誤しながら撮影する姿が目に見えてくるようでした。今後の挑戦も楽しみにしています！

組写真部門

自分だけの視点で捉えた世界を、物語のように表現した作品が印象深かった組写真部門。撮影場所の選定や被写体のリサーチなど、細部までにこだわる姿勢も高く評価されました。



賞状 CREATORSグッズ3点

+FLTトートバッグ

+本革スリムストラップ

「飛んできた!」谷坂 陽菜

八代白百合学園高等学校3年(熊本県)

「とにかくインパクトの強い作品! この表現をいいたいどこで思いついたのか、発想力の豊かさにまず驚かされました。顔にかかってくる物はどれもバラバラの素材ですが、選び方も上手で、面白い形・動き・習慣を色とりどりに表現できています。そして、「重なって顔が見えない」というユニークな演出が、より独創性を高めています」(熊切)
「何度も物を投げ、数えきれないほどシャッターを切ったのだと想像しますが、そんな裏の努力も感じさせないほど楽しい作品。光の質にもまともがあるので、さらに組写真の一体感を高めています。本当にその素材が飛んできそうな場所を選んで撮影していることや、衣装のスタイリングなどの細かなこだわりも、仕上がりに影響していると思いました」(秋山)

受賞のコトバ

この度はTopEye賞に選んでいただき、本当に嬉しく思っています。この作品は、「どこからか飛んできた物が偶然日常に紛れ込む瞬間」をテーマに撮影に取り組んだものです。服の色合いや雰囲気にもこだわりつつ、友人に協力してもらい、何度も試行錯誤を重ねてその一瞬を捉えようと粘り続けました。協力してくれた友人に心から感謝しています。本当にありがとうございました。





賞状

CREATORSイーザーラッパー

Moleskine Nikon F3デザイン
オリジナルノートブック

「ともに生きる」西 小春

八代白百合学園高等学校1年(熊本県)

「激しい動きがなく、淡々とした空気感や距離感を写し出し、見る者にのんびりとした印象を与える表現方法になっています。大空の下、ボツンと歩く被写体の写真があるため、人間とヤギが一体になって暮らす情景が思い浮かび、なんともエモーショナル。『じんわりくる』という言葉がぴったりな1枚になったのではないのでしょうか」(熊切)
「限られた枚数でも、生活の様子が浮かび上がってくる、立体感のある1枚。ヤギや、飼い主の人の柄がにじみ出てくるような温かさを感じます。あえて演出は少なくし、その場に向かい見て光景をそのまま写したいという思いがあったのでは。だからこそ、この作品を見たときに、まるで自分もその場に降り立ったような気持ちになりました」(秋山)



受賞のコトバ

私の作品を金賞に選んでいただいたと聞き、まさかと驚くと同時にとても嬉しく思っています。この作品は、たくさんのヤギと生活するおじいちゃんの日常を撮影したものです。まるで家族のような温かい雰囲気から「ともに生きる」というタイトルにしました。撮影をしながらヤギに対するおじいちゃんのアプローチが感じられ、笑顔の絶えない時間になりました。今回受賞した作品を、おじいちゃんとヤギに1番に見せたいと思います。



「亡町」橋本 紗菜

八代白百合学園高等学校1年(熊本県)

「『亡町』は、アングルの高低を変え、どの写真も目線が合わないよう撮影しているため『異質な世界に出会ってしまった』というインパクトを与えてくれます。少し引きの構図で人がいないことも、狙ったムードを構築していますね。ヤギに当たる光を調整したら、さらにまとまって見えるはず」(秋山)



賞状

Nikonオリジナル
キルティングポーチ

「雨上がり」山本 せな

北海道札幌琴似工業高等学校1年

「『雨上がり』は、近くも遠くもいろんな距離感で景色を見つめ続けたからこそ、バリエーション豊かな『雨』が写し出されています。色味としてもブルートーンで上手にまとまっていますね。人物をあえて外すことで、しとしとした少し気だるいムードも表れていて、雨の日の息遣いを感じられました」(秋山)



「光線」嶋村 咲月

大阪府立工芸高等学校1年

「『光線』は、ナチュラルな空気感が一目で伝わってきました。逆光も計算して光の魅力を操り、被写体の印象的な表情や動きを捉えています。アンバー系の温かい色味も、優しい空気感を生み出していますね。引きの写真を混ぜるともっとテンポがいい構成になり、さらに高いレベルを目指せます」(熊切)





賞状 Moleskine Nikon F3デザイン
オリジナルノートブック

「〈駆け抜けた熱〉は、体育祭の躍動感が純粋に撮影されているのが印象的。角度やレンズ、構図などを変え、さまざまな競技の表情を切り取っています。4枚に写し出されるもの以上に、場の盛り上がりも伝わってきます。スポーツ競技において決定的瞬間を捉える能力にも長けています」(熊切)
「〈わらんべ〉は、号令を受けて人が動き出す、踊るような空気感を写真に収めた作品だと受け取りました。中央にいる人物とシルエットという組み合わせも、三位一体になっていて、これらが重なり、人の声、風が吹く様子など感覚的なものを刺激してきます。見れば見るほど引き込まれました」(秋山)
「演奏の記録であるステージ写真を表現に変えるのは難易度の高いことですが、これを見事に利用したのが〈魂の共鳴〉。空間のきらびやかさや賑やかさ、まさにライブの音が聴こえてきそうな臨場感が湧き起こっています。“記録”と捉えず、音楽を楽しみながら撮った気持ちが伝播していきます」(熊切)

「わらんべ」小松田 唯夏

豊川高等学校2年(愛知県)



「魂の共鳴」三條 颯太

宮城県白石工業高等学校3年





TopEye フォトコンテスト 2025年度 第3回総評

日常の何気ない場면을 新たな視点でつかめていました

熊切：2年生、3年生も難しいテーマに頑張って取り組み、結果を出してくれたと思いますが、1年生の作品は今回もフレッシュでしたね。撮影のルールにとらわれず、純粹に被写体と向き合っているのが自由度高い。そして、面白いものが多かったです。秋山：確かに、1、2年生の作品には、日常生活の中で自分が惹かれたものや、目についたものに素直に向き合っている、という印象を受けました。そのためか、少し見下ろすアングルの作品も目立っていた気がします。自ら動いて被写体を探すことは、楽しい発見の連続。自分の可能性を引き出すアクションでもあるのだと、改めて考えさせられました。



熊切：被写体を探す時間も、撮る時間も大事だけど、「見る時間」も重要。撮影したものをどう紡いでいくか、作品の魅力や組み合わせの奥深さを掘り出していくことも意識していくと、さらにレベルアップできると思います。プリントして並べてみると、自分の興味関心の核や、クセみたいなものも見えてくるはず。

秋山：はい。写真には試行錯誤が必要。時間をかけて「組む」ことにも取り組んでもらいたいです。

熊切：アイデアが素晴らしいのに、惜しくも入賞できなかったものもありましたね。

秋山：そうですね。今回は期待していた結果とは違っても「ダメだった」と思わないで、自分が見つけた発想をブラッシュアップして、じっくり1年を通して、作品を作り上げていってほしいですね。



審査員 熊切 大輔

東京工芸大学を卒業後、日刊ゲンダイ写真部を経てフリーランスの写真家として独立。ニコンカレッジ講師。ニッコールクラブ アドバイザー。公益社団法人 日本写真家協会会長。

審査員 秋山 華子

大阪芸術大学写真学科卒業後、写真家・織作峰子氏に師事。大阪芸術大学写真学科非常勤講師。ニコンカレッジ講師。ニッコールクラブ アドバイザー。

銅賞

2025
第3回

賞状 CREATORレンズケース

「〈65km/h〉は、人の声がこだましてきそうな、夏の雰囲気醸し出されています。そう感じるのは、コントラストが強く効いていたり、サイドから光が当たる写真を組み込み“明るさ”で季節感を描いていたりするため、人物の顔がきちんと写っていない分“誰かが思い浮かべた夏の思い出”という演出もできています」(秋山)
「〈神迎〉は、厳肅な日本の伝統文化が持つ、静かでどこか重厚感がある様子を捉えていますね。この空気感を出しているのは、適切に調整された暗めの露出。アンダー気味にすることで、被写体のひたむきさ、真剣な姿がより際立ち、この行事が非常に深い意味を持つということが見る人に自然と伝わってきます。真剣な眼差しからも、緊張感と人々の誠実な姿が推察できる、印象深い作品です」(熊切)

「神迎」 吉永有沙
八代白百合学園高等学校3年(熊本県)



「ペットショップ」 岩田 麻央
帝塚山学院中学校高等学校3年(大阪府)





「光の波動」 堀口 瑞生
北海道北広島高等学校1年



「蒼(あお)」 太田 斗真 和歌山県立神島高等学校2年



「選る」横尾 凜 和歌山県立神島高等学校3年



賞状 CREATORSステッカー

「2枚の組写真は難しい表現なのですが、それがはまると強烈なメッセージを発する作品になります。〈silent〉はそのハードルを越えてきました。深夜、勉強に励む女の子を主人公にして、ドラマチックな何かを感じさせてくれます。余白を効果的に使い、闇が敷き詰められた静寂さも表しています」(熊切)
「〈正攻法〉は、一見関連性のない組み合わせに見えて、1日の中でものすごく特徴的で、ムードのある光を放つ、`夕暮れ時`がひとつのテーマ。どこか不安定で、ふっと吹けば消えてしまいそうな、切ない印象が光の性質に関連づけられています。ブレや、人物の表情にも哀愁が漂っていてよいです」(秋山)

「silent」古閑本 茉弥 八代白百合学園高等学校2年(熊本県)



「視ている」野尻 琉翔 東京都立武蔵村山高等学校1年



「我が家のルーティーン」清水 麻衣 福井県立丹生高等学校3年



「Fragments of Us」北隅 ひなた 大阪府立工芸高等学校1年



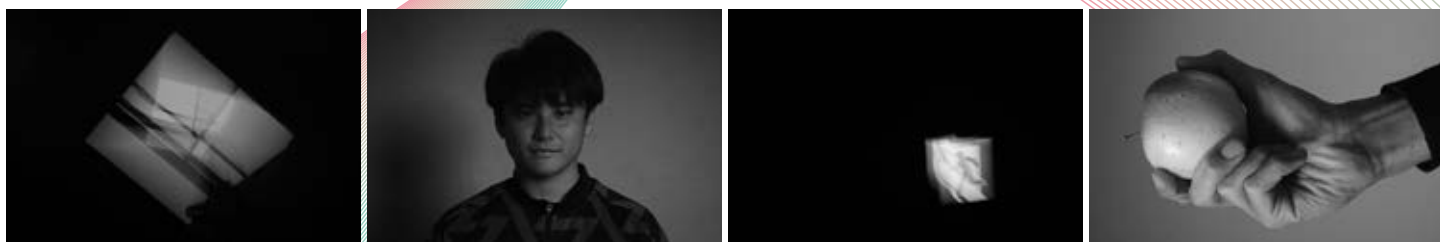
「日常」 森本 一柊 和歌山県立神島高等学校1年



「消えゆく」 知花 結 沖縄県立浦添工業高等学校3年



「正攻法」 島田 英澄 神奈川県立逗子葉山高等学校3年



「しずくの住人」 木村 颯埜 中越高等学校2年(新潟県)



「存在」 山根 楓 和歌山県立神島高等学校2年



単写真部門

被写体の魅力を見極め、最高の瞬間を1枚に収める単写真部門。そこに写る表情や光は、多くを語らずとも心を揺さぶる力があり、豊かな表現力に先生方も深く感心していました。



「ミルモノ」梅田 泰輔

神奈川県立横浜瀬谷高等学校3年

「写真の天地を逆さまにし、2枚をつなぎ合わせて構成することで、独特で不思議な世界観を生み出した作品です。空の形がまるで「目」のように見え、二重世界を思わせる雰囲気が印象的。また、手を上に伸ばすポーズからは、天地で指を差し合うようなイメージを意図して撮影したことが想像でき、しっかりとコンセプトを組み立てたクリエイティブ力の高さも評価できます」(熊切)
「色彩やコントラストの調整により、空の向こう側の存在と手をつなごうとしているようにも、目には見えない何かと交信しているようにも見えるファンタスティックな空気感が表現されています。完全な反転ではなく、わずかな違いがあることも、深く読み解きたくする要因です」(秋山)



賞状 CREATORSグッズ3点
+FLTトートバッグ
+本革スリムストラップ

受賞のコトバ

この度はTopEye賞にご選出いただきありがとうございます。高校で写真部に入り、無知の状態から「誰が見ても不思議と感じられる写真を撮りたい」という思いで撮影を続けてきました。多重露光で撮った本作は、その答えにもっとも近い1枚になったと感じています。撮って、見て、学ぶ日々の積み重ねが自分らしい写真表現につながりました。撮影に関わってくださった皆さまに心より感謝を申し上げます。





賞状 CREATORSイージーラッパー

Moleskine Nikon F3デザイン
オリジナルノートブック

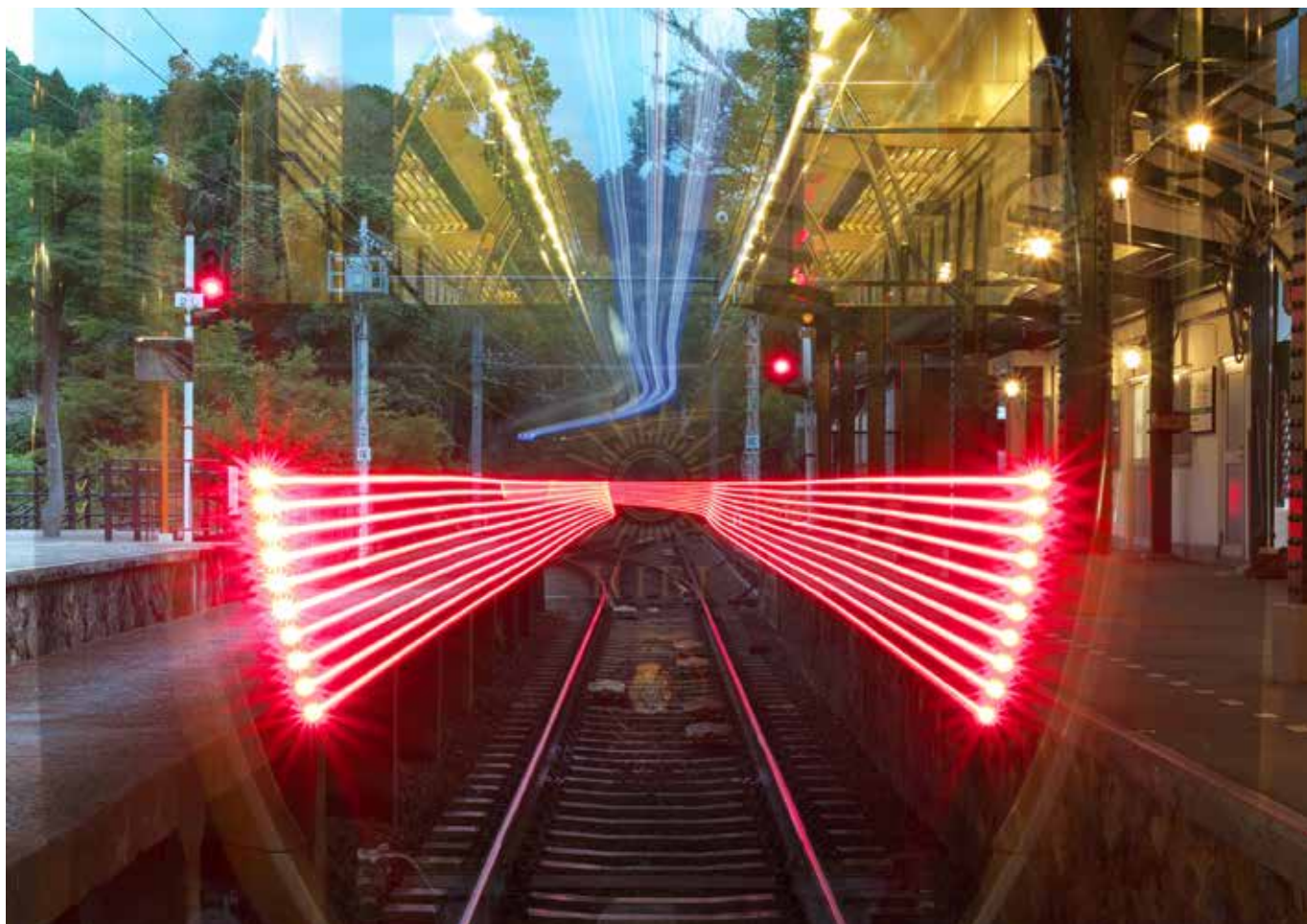
「発車オーライ」中村 颯太

龍谷大学付属平安高等学校1年(京都府)

「列車の連結部分が切り離されたときに見える世界を捉えたのでしょうか。見たことがない切り口でとても新鮮に感じました。シンメトリーな構成が、光のラインの美しさや神秘的な印象を引き立てています。車両内に人物が写り込んでいないのも、この構図を生かす効果になっていて、細部まで配慮されていることが伝わります」(秋山)
「赤いテールランプの存在感が際立っているために平凡な光の流れにならず、強いインパクトを放つ作品になっています。これはどの列車でも撮れるものではなく、この状況が生まれる条件を丁寧にリサーチしているのだと思いますが、被写体への理解を深めたからこそ、狙い通りの1枚が撮影できたのではないのでしょうか。私たちの知らない、新たな鉄道写真の表現をまざまざと見せてもらいました」(熊切)

受賞のコトバ

この度は、単写真部門の金賞に選出していただき本当にありがとうございます。この写真に写っている列車は、私が中学生のとき、通学時に利用した列車で、日常を写真として切り取れば、新しい発見があるのではないかと思います。これからも、新たな発見を探求することを意識して頑張りたいと思います。



賞状 Nikonオリジナル
キルティングポーチ

「遅刻遅刻〜!!」城戸 ひかり

八代白百合学園高等学校1年(熊本県)

「〈遅刻遅刻〜!!〉青春アニメのワンシーンのような、ハッピー感が写真からあふれていますね。ローアングルから青い空の表情をたっぷり入れ、赤い鳥居との色の組み合わせも最高です。もっとアニメ的なムードに振って、跳ねてもらうなど、デフォルメしたポーズをとっても面白い作品になったかもしれません」(熊切)



「赤い巨影」安田 万莉明

岐阜県立岐阜総合学園高等学校1年

「街の中で撮影したスナップ〈赤い巨影〉は、壁画とリンクする人物を見つけ出し、ベストな瞬間を押さえた作品だと思いました。シャッタースピードのブレ感も適度です。完成度は高いですが、もう少し被写体の足元にスペースを入れることができれば、リズム感のある仕上がりになったと思います」(秋山)



「一日今日も」

高畑 佑成

愛媛県立新居浜工業高等学校1年

「〈一日今日も〉農機具を抽象的な姿に捉えているため、どこかドラマチックな作品になっています。赤から青のグラデーションになった空の色合いもうまく読み取って撮影していますし、手前は平面的でも背景に奥行きがある対比でバランスがよいです。広角のレンズ効果を生かしても、より主題の存在感を生かせると思います」(秋山)





賞状 Moleskine Nikon F3デザイン
オリジナルノートブック

「〈みんなで遊んだ日〉は、子供の表情や仕草が全面に押し出された作品。大人の足の間から覗く、視線を低くした世界は、10代の感覚だから撮れた眩しさがあります。水溜まりに反射する写り込みや、左右に見切れた人物の写し方などの技術面でも安定感があり、モノクロの階調の出し方も自然です」(秋山)
「海に沈む夕日というのはよくある表現なのですが、〈流木の祈り〉は、不思議な形をした流木を光の道の延長線上に置くという、シルエットの表現が秀逸。仕上げも絶妙で、浜辺の砂の表情などを含め、夕暮れ、光が最後に失われていく美しい瞬間をありありと実感できる作品になっています」(熊切)
「〈イエローベリー〉は、ドローン独特の上空からの距離感があり、非日常的な構図を描き出しています。人物が草花に紛れ込んでいくような構図の“間”の使い方もお見事。まるでクオリティの高い広告写真のようで、ここに文字を載せたものも見てみたいと思ったほど魅力を感じました」(熊切)

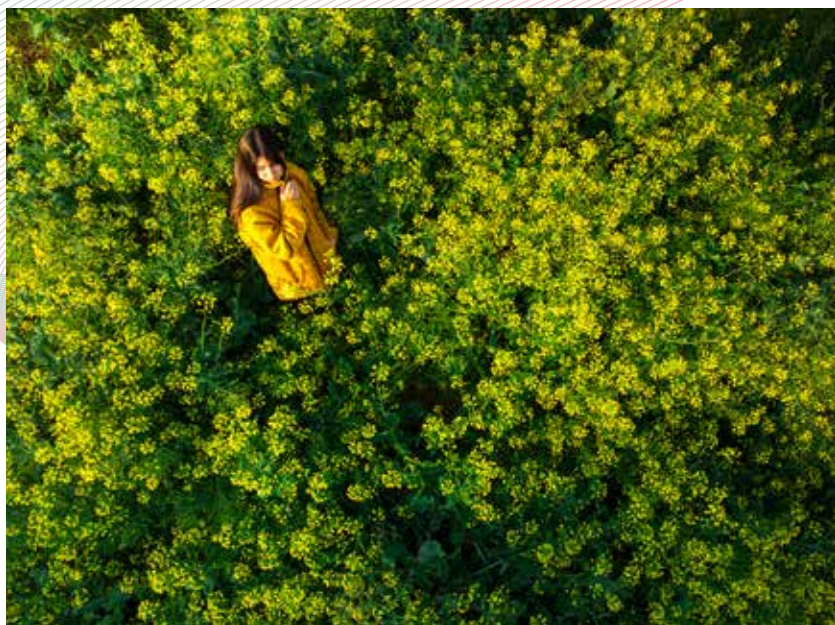
「みんなで遊んだ日」 濱本 海里

和歌山県立神島高等学校2年



「イエローベリー」 島影 丈丸

群馬県立勢多農林高等学校2年



「流木の祈り」 相馬 虹花

北海道北広島高等学校1年





賞状 CREATORSレンズケース

「〈全力〉は、日に照らされながら黙々と作業する様子をローアングルで撮影することで、勢いがある構図になっていますね。被写体の表情が見えない分、どんな感情で作業をしているのだろうと想像力が膨らみました。色彩が穏やかなので、静かな自然の中にいる臨場感も表現できています」(秋山)
「光の生かし方が巧妙で興味を惹かれたのが〈共鳴〉。第一印象で、どんなロジックがあるのか知りたくなりました。クルクル回すことにより光が描く独特のデザインは、動画では表せない写真ならではの魅力。シンプルな線でありながら、その面白さを最大限に引き出していると思いました」(熊切)

「はらぺこ」白井杏
豊川高等学校1年(愛知県)



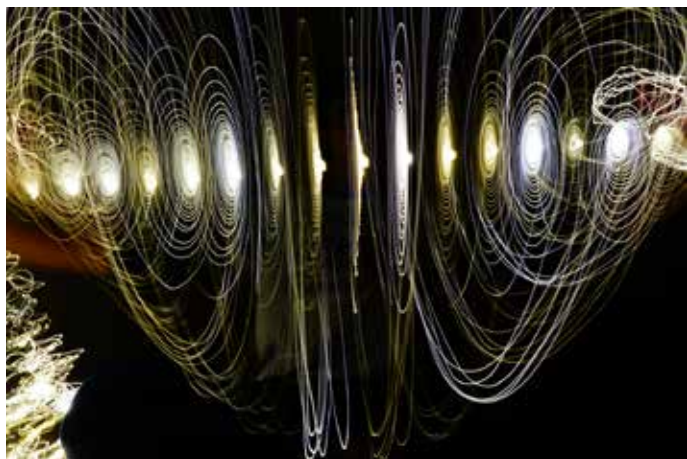
「全力」太田 斗真
和歌山県立神島高等学校2年



「浴びる闘志」飯塚 大和
神奈川県立横浜瀬谷高等学校2年



「共鳴」堀部 勇人
北海道札幌琴似工業高等学校1年



「きらめくシャボン玉」遠山 樹
中越高等学校1年(新潟県)



「夕焼けの悪戯」東條 正佳

仙台市立仙台工業高等学校3年(宮城県)



「最高のフィナーレ」別所 旺典

香川県立高松工芸高等学校1年



「泡沫の記憶」渡邊 哲太

東京都立武蔵村山高等学校2年



「ふたりの思い出」木吉 彩乃

八代白百合学園高等学校3年(熊本県)



賞状 CREATORSステッカー

「〈ふたりの思い出〉は、砂浜をカットした構図により視線が対岸へと導かれ、広大な海の広がり強調されています。また、親子と思われる人物がぼつんと佇む姿から、ふたりが“あちら側”に思いを馳せているような、ストーリー性も秘めています。濃淡のある空の配分を増やす構図で、モノクロの光と影の美しさもしっかり表現できていると思いました」(秋山)
「〈黄昏のホームにて〉は、鉄道と、それを利用する人々とのドラマが見えてくるような作品。夕景に照らされた車体の艶感やシルエットなどがフォトジェニックで、男性が1人乗り込もうとしている様子から物語が始まりそうです。限られた要素だけで、この光景の美しさを表すセンスも評価したいです」(熊切)

「生き生きと」中川 友花

中越高等学校1年(新潟県)



「黄昏のホームにて」菅野 裕大

北海道札幌工業高等学校1年



「自由を…」稲石 七彩

豊川高等学校3年(愛知県)



「夏の儚さ」松澤 聖昂

東京都立世田谷泉高等学校2年



「こんにちわん!」山本 奈央

和歌山県立神島高等学校1年



「君のいる青」繁原 里織

錦城高等学校2年(東京都)





2026

TopEye 全国高校生 写真サミット

出場校
10校が
決定！

TOPICS 01

出場校の紹介！

1位	／ 和歌山県立神島高等学校	830pt
2位	／ 八代白百合学園高等学校(熊本県)	510pt
3位	／ 神戸国際大学附属高等学校(兵庫県)	250pt
4位	／ 神奈川県立横浜瀬谷高等学校	150pt
5位	／ 帝塚山学院中学校高等学校(大阪府)	130pt
6位	／ 大阪府立生野高等学校 沖縄県立浦添工業高等学校	110pt
8位	／ 大阪府立工芸高等学校 福井県立丹生高等学校	100pt
10位	／ 豊川高等学校(愛知県)	80pt

TOPICS 02

多彩なプログラムを用意！

- ✓ 生徒同士の交流を深める企画
- ✓ 3エリアでのグループ撮影実習
- ✓ プロの写真家による写真セレクト指導
- ✓ プリントワークショップ
- ✓ プレゼン検討会 etc…

TopEye全国高校生写真サミット2026は、「TopEyeフォトコンテスト」の第1～3回までの組写真・単写真の合計得点によって、全国から選抜された写真部が集うイベント。同世代の写真仲間たちとのコミュニケーションを通して、部活動を超えた学びと感動体験をお届けします。開催中は3日間にわたってさまざまなプログラムをご用意。そして今回惜しくも参加できなかった学校の皆さんとも、次回お会いできることを楽しみにしています！

TOPICS 03

プロの写真家も参加！



熊切 大輔

東京工芸大学を卒業後、日刊ゲンダイ写真部を経てフリーランスの写真家として独立。ニコニコレレッジ講師。ニコニコクラブ アドバイザー。公益社団法人 日本写真家協会会長。



秋山 華子

大阪芸術大学写真学科卒業後、写真家・織作峰子氏に師事。大阪芸術大学写真学科非常勤講師。ニコニコレレッジ講師。ニコニコクラブ アドバイザー。



松尾 純

女子美術大学デザイン科卒業後、世界各地の辺境で暮らす人々をテーマに取材を続ける。50以上の国と地域での撮影経験を持ち、近年は講師のほか書籍や雑誌など多方面で活動。

ニコン本社で待っています！



日程: 2026.1/30(金)～2/1(日)

会場: ニコン本社 イノベーションセンター アトリウム

U-18部門が快挙!

第73回ニッコール フォトコンテスト

結果
発表

1953年から続く国内有数の規模と歴史を誇るニッコールフォトコンテスト。第73回を迎える今回は、全国から12,139点の作品が集まりました。そしてグランプリはU-18部門からの選出! 眞野瑞己さん、おめでとうございます!

なんとU-18部門から!

グランプリ
U-18部門(単写真)



「寒暄の舞」 眞野瑞己さん(愛知)

金賞 U-18部門(単写真)



「突き進む」 幸地 今梨さん(沖縄)

12月6日、ニコン本社で授賞式がありました!



U-18部門で受賞した皆さん。このあと懇親祝賀会が催され、入賞者や審査員の交流の場となりました。

金賞
U-18部門(組写真)



「覚悟」 小上馬 杏南さん(京都)

第182回フォトサロン入選作品「朝腹戦」



後悔しないように、
“今”をたくさん切り取って

高校時代、力を入れていたのは内容やシチュエーションを作り込むことです。タイトルや絵コンテを描いて撮影に臨んでいましたね。明るくて温かみのある雰囲気が好きなので、光の入れ方も大切にしていました。もう1つはスナップです。初対面の人々に声をかけて、会話をしながら行う撮影が楽しかったです。「朝腹戦」も学校近くの漁港でそうやって撮影した作品です。「お魚おいしそうだな」と思いながら(笑)、構図がかぶらないように意識しました。高校生の頃は「写真に個性がない」と悩むこともありましたが、周囲に「平阪の作品には温かみがあるよね」と認めてもらえたことで、自分らしい表現への道が拓けていきました。

卒業後は写真の専門学校に進学。自分らしい色味を追求するなど表現力を磨きました。

一日の大半を写真について考えて過ごすので、「考え抜く力」も身につきました。卒業後は写真スタジオに3年ほど勤務しました。ライト技術や機材の使い方を学んだり、プロの仕事の間近で見た。厳しいこともありましたが、同じ専門学校出身の同期たちと切磋琢磨しながら経験を積んでいきました。

撮りたいものと思い切って撮ること。それが皆さんに伝えたいアドバイスです。私も高校時代、スナップ中に「あの人に声をかければよかった」と後悔することが多々ありました。今となっては「断られたらそれでいい」と思いますが、高校生活の写真是貴重だということ。あの日々をもっと収めておけばよかったと、今とても後悔しています。下駄箱や教室で撮った何気ない写真を見返すと、絶対に撮れないものなので、もし学校生活でちょっとでも「いいな」と思う瞬間があれば、ぜひ積極的に撮影してみてください。

TopEye's OB&OG interview

今になり先輩を
訪ねて。
vol. 6



平阪 瑠菜さん

和歌山県立神島高等学校卒業後、日本写真映像専門学校に進学したのち、松濤スタジオにスタジオスタッフとして勤務。現在はカメラアシスタントをしながら作品撮りを精力的に行う。

HP: runahirasaka.myportfolio.com

@[hirasakaruna](https://twitter.com/hirasakaruna)

WEB・SNS展開中!

チェック&フォローお願いします

TopEyeの公式Instagramでは、コンテストの入賞作品や取材のひとコマ、写真展案内など、はりきって更新中。また、ニコンイメージングジャパンの公式LINEではニコンの製品やキャンペーン、ニコンプラザなどの最新情報をお届けします。ぜひフォローしてください!



「TopEye」
Instagram



ニコン
イメージングジャパンLINE



ニコンイメージングジャパン
「TopEye」WEBサイト